

第13回分科会における主なご意見

項目	主なご意見(概要)
共助体制 (安全対策)	<p>○除雪作業中の死亡者が出ないように、豪雪地帯対策の中でも最優先で取り組んでいただきたい。</p> <p>○除雪作業中の安全確保や地域生活圏での除雪体制を作ることが事故防止、早期発見にもつながるものとして重要であるため、雪処理の担い手の確保・育成のための予算を抜本的に拡充し活動地域を広げるべきである。</p> <p>○ボランティアの担い手・公助・共助のソフト的な施策が中心であるが、豪雪時の雪処理に広域的かつ効果的に対応するために、建設業団体・その他の非営利団体等との連携を図る試験的な試みの実施を行っていただきたい。</p> <p>○豪雪は直接、間接に災害に結びついているため、豪雪地帯において、克雪が地域防災活動の一環として位置づけられることや、自主防災組織や町内会の防災部会などが参画できる場をさらに広げ、除排雪の実行性を高めることが望まれる。</p> <p>○豪雪地帯での担い手不足に関しては、島根県飯南町の「レディースノーヘルパー」の取組みのように、女性ならではの地域の見方やネットワークを生かしていくことも重要。</p> <p>○雪下ろし等除雪の安全対策についての注意喚起の充実、また、命綱の普及に向けた取組が屋根雪下ろしによる事故の軽減に有効であるため、普及の向上に向けた施策の展開を期待したい。</p> <p>○今冬はニュースなどで「雪下ろしの注意事項」を繰り返し流すなど、雪対策施策として一歩前進したが、雪下ろしに関わる事故を減らすための課題として、屋根葺材等の見直しにより雪下ろしの必要性が減ったことの周知の観点があげられる。</p> <p>○屋根雪関連事故対策に関しては、雪処理の担い手の確保と同時に、屋根雪処理技術開発の支援が必要である。また、屋根雪処理技術は空き家の屋根雪処理の省力化にも役立つ。</p> <p>○今後は人口減少が進む地域では、ITを活用した情報提供や、年寄りやハンディキャップのある人でも、家の周りの除排雪が可能な技術(AI, ロボット)などについても研究を進めていって欲しい。</p> <p>○積雪はあるが克雪住宅に改修するほどでもない地域の屋根雪と間口の雪処理についても取り組んでほしい。</p> <p>○共助や自助というが、高齢者の割合が50%を超えるなど、共助が限界にきている地域がある。</p> <p>○風水害はじめ大災害が激甚化、頻発化していることから、日常的な除雪体制の確保とともに、豪雪に対する防除体制を確保することの両面が重要になってくる。</p> <p>○豪雪地帯では、高齢化により除雪の担い手が少ないため、間口の雪を融雪シートで次々と溶かすようなことをやらないとお年寄りを助けられない。融雪の電気代を、一冬かけてもいいようにしなければならない。</p>
空き家対策	<p>○要除却空家に対する目標値を設定し、過疎地域については過疎債を活用しながら町並みをきれいにすることで、空家の除雪も必要でなくなるように取り組むべき。</p>

項目	主なご意見(概要)
雪冷熱エネルギー	<p>○雪冷熱エネルギーについて、関連商品を店頭で見える機会も増えており、活用促進が進んでいる現状を実感しているが、さらなる活用促進を期待したい。</p> <p>○雪冷熱エネルギーの活用促進について、再生可能エネルギー関連の事業、農業支援のごく一部分できわめて少数の事業が行われているに過ぎないため、国土交通省は、さらなる推進に向け、もう少し強力に働きかけをおこなうべきだと考える。</p> <p>○スノーリゾート地において雪冷熱エネルギーを活用して開発された地域製品の提供ができるような仕組みを構築することで、複合的な雪利用が期待できる。</p> <p>○既存の倉庫を雪室にする場合は、断熱性能を上げるための設備および排水設備などが必要になるため、雪冷熱式倉庫への補助をさらに進めて行って欲しい。</p> <p>○雪を活用して、必要となる費用を一般化し、電気を利用した場合とコスト比較したり、CO2削減にどれくらい貢献できるかなど、モデル事業での実証や、アイデア募集してみてもどうか。</p>
道路関係	<p>○今般発生したきわめて長時間に及ぶ関越道の立ち往生事案について、国土交通省が取り組んできた早めの通行止めなどの政策が、高速道路各社にも同様に適用されていたのか事実関係の早急な把握と、現状の対応で十分なのかを速やかに検証し、再発防止策に早急に取り組んでいただきたい</p> <p>○記録的な大雪となる判断がついた時点でいち早く通行止めへの舵を切ることも必要である。</p> <p>○今冬の関越道の立ち往生は、雪対策の準備が終わらない12月中旬の豪雪に加え、豪雪地と非豪雪地を結ぶ道路であったことが影響しており、豪雪予報が出された段階で高速道入り口で厳しく規制することが必要。</p> <p>○豪雪への道路の広域的な信頼性を確保するために、地域間の連携体制を整備し訓練をしておくことが望まれる。</p> <p>○先日の関越自動車道での車の立往生等こうした場合に備えての、共助、公助という仕組み・支援体制をより一層強化していく必要がある。</p> <p>○車両の連鎖的滞留のメカニズムとともに、滞留に遭遇した人たちが早くそこから解放されるような手段や整備の方法を考えてはどうか。</p> <p>○道路除雪の担い手について、熟練したオペレーターの高齢化による担い手不足に問題意識を持っており、若手育成のほか、AIを利用した除雪ナビなどがあるとよいと思う。</p> <p>○道路における除雪オペレーター、除雪機械の確保が必要であり、地域維持型契約を後押しすることを始め、国のいっそうの支援が求められる。</p> <p>○オペレーターの確保について、農林業地域の振興の一環としても、建設業だけではなく農業法人も指導育成するなどして、裾野を広げていくことも可能ではないか。</p> <p>○建設業に関して、道路における除雪の待機時間に対する支援がないので考えてもらいたい。</p>

項目	主なご意見(概要)
道路関係	<p>○道路の除雪に関して「空振り」を恐れず待機料を支払える、除排雪作業開始の判断を遅滞なく行えるだけの財政的支援が必要。最低保障料金も検討すべきである。</p> <p>○スタックが渋滞原因になる場合が多く、スタックの発生が予測できるような研究・技術開発を推進し、除雪配備計画や渋滞をできるだけ未然に防ぐ対策(スタック注意情報)に役立てて欲しい。</p> <p>○道路除雪について、人口減少や超高齢化の進展を踏まえ、スマート化や自動除雪ロボットの開発をしていく必要がある。</p> <p>○ドライバーへの情報提供の即時性を持たせるため、カーラジオの活用法について検討してみてもどうか。</p> <p>○国道沿線のコンビニやGS、地域住民との協力により、道路管理者がもっと除雪活動に割く時間が増える仕組みができれば、より速やかな停滞と不安解消が期待できる。また、大雪を原因とした倒木による道路や送電設備の寸断について、起こる前の対応(危機管理)を一層意識する仕組みをマニュアル化して欲しい。</p>
全般・その他	<p>○流雪溝などインフラの老朽化や更新の問題は大切である。</p> <p>○国交省として、スマートにQOLを向上させていくということを産業戦略というか成長戦略に何か置けないかなということが、豪雪地帯に大事だと思っている。社会システムの中にどう定着できるか、他省庁とも連携しながら考えていただきたい。</p> <p>○ここ数十年では数年おきに多雪となるので、降雪量の予測は難しいところはあるが、自然の変化をきめ細かくモニターして、豪雪の対策に活かすことが大切だと思う。</p> <p>○そもそも高齢化、人口減少が進んでいることに前向きな展望を見いだす必要があるという根本問題を指摘しなければならない。</p> <p>○他省庁・他部局などの施策を取りまとめると同時に、豪雪地帯オリジナルな取組みもあったほうがよい。</p> <p>○大雪等の異常時においては、通信の安定的な確保が課題となるため、通信網の信頼性・保全性を確保できるように備えておくことが望まれる。</p> <p>○排雪場所の確保について、下水の利用や地域での助成等があると助かるのではないかと。また、空き家を地域の雪捨て場に活用させていただけると地域は助かる。</p> <p>○雪国にも「伝統建築工匠の技」で作られた多くの文化財建造物があり、冬期間は雪囲いや雪下ろしを自治体文化財関係者や文化財関連高齢者が行って、維持されているのが現状であることから、国指定文化財建造物の雪対策支援を検討いただきたい。</p> <p>○凍上災について、現採択基準である「低温」のみならず、「雪害」の観点から、採択基準の緩和及び降雪状況を加味し地域の実情に即した要件を位置付けるか、または、豪雪地帯における除排雪道路復旧整備費制度の創設を行っていただきたい。</p> <p>○雪下ろしツアーなどアドバイザーによる指導のもと体験型の観光にすれば、海外からの観光客の参加が見込める。雪下ろしを観光として、体系的にできるといい。</p>